

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：21201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00342

研究課題名(和文)「折口信夫旧蔵資料の分析・評価とその成果活用による同時代文学の資料学的研究」

研究課題名(英文) Analysis and evaluation of Orikuchi Shinobu former storage material for literature study and material studies of contemporary literature utilizing the results

研究代表者

松本 博明 (MATSUMOTO, HIROAKI)

岩手県立大学・その他部局等・特命教授

研究者番号：20310146

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：折口信夫(釈迦空)の未整理、未解読資料(國學院大學折口博士記念古代研究所旧蔵資料)の整理・解読・分析・評価をおこないそのデータを蓄積、データベースで可視化した。これらを活用して、彼と同時代に関わった近現代文学者、とりわけ小説家、詩人、歌人たちとその作品について、資料学的研究を進めることが可能となった。併せて、それら関係資料の収集も行った・近現代文学研究において現今急速に研究が進み成果が発表されている周辺資料の掘り起こしによる作品の新たな読みへの展開、草稿研究による折口信夫作品の生成論的研究につなげた。データベースは完成後逐次公開し、折口信夫旧蔵資料の学術的価値を広く開示、斯界の活用に資した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現今の近代文学研究においては、作品の生成論的研究が近代文学研究の重要な手法として試みられ、そのために草稿の持つ役割が改めて見直され、草稿研究が進展を見せているところである。しかし折口信夫の草稿群については、草稿研究はおろか草稿や手帳、受取書簡資料の全面的解読、さらには周辺資料の整理も行われていないのが現状である。これら膨大な折口旧蔵資料の整理と解読、そしてそのデータベース化は、単に折口信夫研究だけでなく、同時代文学においても不可欠であり、完成に至らずとも社会的意義は大きい。

研究成果の概要(英文)：We have organized, deciphered, analyzed, and evaluated the unorganized and unread materials of ORIGUCHI Nobuo (Shaku etc.) (materials formerly owned by the Kokugakuin University Dr. ORIGUCHI Memorial Institute for Ancient Studies), accumulated the data, and visualized them in a database. By using these materials, it will be possible to conduct archival research on modern and contemporary literary figures, especially novelists, poets, and poets who were involved with ORIGUCHI SHINOBU and his contemporaries, and their works. The database will be used to develop new readings of the works of Nobuo ORIGUCHI through the excavation of peripheral materials, the results of which are now being rapidly studied and published in modern and contemporary literature research, and to conduct generative research on the works of ORIGUCHI Nobuo through draft studies.

研究分野：人文学

キーワード：折口信夫旧蔵資料 調査・解読・整理 目録・データベース化 同時代研究

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

昨今近代文学研究においては、作歌の周辺資料を丹念に収集し、作品の読みを再度検討する研究や、作品の生成過程を子細に分析して、作品そのものを多角的にとらえる草稿研究が盛んになってきている。例えば前者では本研究の分担者である庄司達也による芥川龍之介における仕事、あるいは円本を中心とする出版メディア戦略の研究など、また後者では戸松泉『複数のテクストへ-樋口一葉と草稿研究』など資料・草稿を駆使して多角的に作品に切り込んでいく研究が成果を生み出している。そうした中、大正年間から昭和28年まで、研究だけではなく、同時代文学にも深い影響力と発言力を持っていた折口信夫の書簡資料、周辺資料が整理分類され、分析されること、そして研究資料として多くの研究者に活用されることは極めて重要なことである。また折口信夫旧蔵資料を整理・解読・分析することは、折口信夫が宗教学、民俗学、古典文学にも深い造詣と研究業績を持っていたことを考えると、こうした広い研究分野に対しても極めて貴重な情報を提供することになるだろう。

そのことを前提にして、本申請課題は、最終的には折口信夫旧蔵資料の全貌解明を目指し、その成果を、近現代文学はもとより、他分野を巻き込んだ研究の遡上に載せることを目指している。研究代表者および分担者は、平成26年度から平成28年にかけて「折口信夫旧蔵資料の調査とその評価を通じた同時代文学の資料学的研究」(基盤C=課題番号26370258)の助成を受けて、これら資料の整理と解読、評価分析を行い、その成果を学会等で発表してきた。

しかしながら、その膨大にして複雑な資料を個別かつ詳細に整理分析することに多くの時間を費やさざるをえず、平成28年9月までの整理分析・評価はまだ道半ばであるが、相応の成果を蓄積することができた。当該科研費研究成果の状況は以下の通りである。

() 自筆原稿資料については、その表題と外形的な整理、大まかな内容に関する分類を行い、基本データベースを作成。() 1万通を超える折口信夫受取書簡については、書簡の差出人、発信年日時、書簡・はがきの別など外形的な情報については研究代表者によって基本データとして整理され、これらを軸としてデータベースの骨格が完成。() 手帖・小型ノートについては全容の把握は完了したが、個々の読み込みにはまだ時間を要すると思われ、これをおこなうことで、手帖・小型ノートが、同時代の近現代文学研究に果たす役割が十分に見えてくると考える。() 年譜資料については、各資料の整理は完了。

() については既に國學院大學博士記念古代研究所において目録が完成している。

() については、研究代表者によってデータベース化が完了。

こうした成果を踏まえ、解読・分析・評価がまだ完了していない資料について、その作業を進めるとともに、完了したデータから入力を急ぎ、斯界の活用に資するデータの蓄積を行って行きたい。

2. 研究の目的

折口信夫(釈迢空)の未整理・未解読資料(國學院大學折口博士記念古代研究所旧蔵資料)の解読・分析に加え、現存する多種の資料の解読と評価分析を行い、これらのデータをデータベース等で可視化する。それらに基づいて折口信夫と関わった近現代文学者および同時代の作品の資料学的研究をさらに推進する。こうした取り組みによって、日本近代文学研究において現今急速に研究が推進され成果が出ている作品周辺資料の掘り起こしによる作品の新たな読みへの展開、さらには草稿研究による折口作品の生成論的研究につなげることが可能となる。また、データベースは公開し斯界の活用に資するものとする。

3. 研究の方法

多様に現存する「折口信夫旧蔵資料」の整理・解読・分析・評価を通じて、当該資料の重要性を明らかにするとともに、それらの結果・成果を公開することで、いままで近現代文学、あるいは宗教学などの他分野において活用されてこなかった折口信夫のあらたな言説や記述が、あるいは事実関係が見出され、当該研究に格段の進歩をもたらす可能性が高い。そのための基礎的成果を蓄積、提供する。

4. 研究成果

・研究計画・手法

「研究目的」と重複するが、折口信夫旧蔵資料は（ ）自筆原稿を含めた原稿資料、（ ）折口信夫受取書簡資料、（ ）手帖・小型ノートなどの手控え資料、（ ）年譜関連資料、（ ）諸コレクション、（ ）折口文庫（旧蔵図書・雑誌）とに分類される。これら資料について、以下のような画・方法で研究を遂行する。

平成 29 年度

（ ）自筆原稿資料については、その表題と外形的な整理、大まかな内容に関する分類を行い、基本データベースを最適化する。個別分析がまだ行われておらず、それら草稿が個々にどのレベルの草稿であるについての分析を、すべての草稿において行う。

（ ）折口信夫受取書簡については、書簡の差出人、発信年日時、書簡・はがきの別など外形的な情報についてはこれらをデータベースの骨格の中にコンテンツとして入れ込む作業を行う。

（ ）手帖・小型ノートについて読み込みを推進する。

（ ）年譜資料については、資料の最適化を行い、データベースに入力して構築する。

（ ）折口文庫（旧蔵の図書・雑誌）については、細部の確認・修正と分析を行う。

上記年度ごとの成果を、適宜研究会を開催して共有するとともに、学会、報告会などで成果報告する。

平成 30 年度以降

（ ）断簡など作品が特定できていない自筆資料についてもできるだけ解読分析評価を行い、どの段階の草稿であるかを特定する。このことによって、未解読の断簡を除く「自筆資料データベース」を完成させ、最適化する。これらを活用した研究を個々に行う。

（ ）手紙内容の分析、解読、整理。データベースの構築を行い、そのデータと書簡内容を解読した結果をリンクして、研究者が活用できる段階にまで向上させる。

（ ）手帖・小型ノートについて読み込みを推進する。全文翻刻を行い、可視化する。

（ ）従前の年譜資料との突合を行いながら、年譜の改良に資するデータを蓄積、年譜の改良に関する報告を行う。年譜資料データベースの概略版を完成させる。概略版には今後の新発見資料を入力できる形を整える。

（ ）折口文庫（旧蔵の図書・雑誌）のデータベースを完成させる。

上記成果を研究代表者、分担者が個々に報告し成果執筆する。また上記の成果を斯界に報告する報告会を開催する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 庄司達也	4. 巻 24
2. 論文標題 音楽から出会う中原中也	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中原中也記念館報	6. 最初と最後の頁 3-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庄司達也	4. 巻 68（8）
2. 論文標題 「文学好きの家庭から」から見る文士芥川龍之介 - 新進青年作家の戦略としての「母は津藤の姪で」の	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 52-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庄司達也	4. 巻 42
2. 論文標題 文学者と西洋音楽の縁 - 所蔵レコードなど調べ、蓄音機で追体験	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本経済新聞	6. 最初と最後の頁 42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庄司達也	4. 巻 55
2. 論文標題 芥川龍之介と大阪毎日新聞社 一九二四年一月「誠職事件」考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 湘南文学	6. 最初と最後の頁 83-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庄司達也	4. 巻 3
2. 論文標題 手紙を読む楽しみ / 室生犀星書一通	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近代文学資料研究	6. 最初と最後の頁 59-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庄司達也	4. 巻 691
2. 論文標題 芥川龍之介の書簡「文壇」という大海へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 三和新聞	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庄司達也	4. 巻 23
2. 論文標題 芥川龍之介と大阪毎日新聞	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本文学文化	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庄司達也	4. 巻 317
2. 論文標題 芥川龍之介展 「思惟」することを求める力	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本近代文学館	6. 最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本博明	4. 巻 33
2. 論文標題 折口信夫の民俗・芸能調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 盛岡大学日本文学会誌	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川則夫・齋藤樹里	4. 巻 28
2. 論文標題 折口信夫宛献呈本の調査報告 室生犀星献呈本を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本文学論究	6. 最初と最後の頁 65-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庄司達也	4. 巻 136
2. 論文標題 二字の伏せ字 戦時下での或る編集者の仕事	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国文学言語と文芸	6. 最初と最後の頁 89-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本博明	4. 巻 23
2. 論文標題 折口信夫、自著を献呈する	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本博明	4. 巻 83
2. 論文標題 折口信夫没後七〇年の「文芸復興」 - 「折口信夫旧蔵資料」全面解析の意味	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本文学論究	6. 最初と最後の頁 43-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件 (うち招待講演 12件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 教養としての漢詩 - 島崎藤村「小諸なる古城のほとり」を巡って
3. 学会等名 中国文学と日本文学 (上海杉蓮大学日語系) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 久米正雄と大正期の文学
3. 学会等名 こおりやま文学の森資料館 文学講演会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 芥川龍之介への「友人甲斐」 - 久米正雄「牡丹緑」の舞台裏
3. 学会等名 こおりやま文学の森資料館 文学に親しむイベント (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 若き久米正雄と第四次『新思潮』 雑誌『新思潮』に集った青年たちの夢
3. 学会等名 こおりやま文学の森資料館 文学に親しむイベント(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 明田川龍之介「伝」。「年譜」考 - 太宰治、ストラヴィンスキー、モーパッサンに関わる「記述」を巡る課題
3. 学会等名 国際芥川龍之介学会 ISAS第15回国際大会(オンライン大会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 「大阪毎日新聞社と菊池寛」補説
3. 学会等名 国文学 言語と文芸の会 3月例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 芥川龍之介「雛」の銀座「煉瓦通り」 - 紺珠十篇の中」という懐かしいお話から小説へ
3. 学会等名 日本近代文学館「資料は語る2022 - 資料で読む「東京文学誌」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 芥川龍之介の講演旅行 紀行文「東北・北海道・新潟」をめぐる
3. 学会等名 芥川龍之介生誕一三〇年 旅の記憶展（山梨県立文学館）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 音楽で出会う堀辰雄 蓄音機・SPレコードで聴く
3. 学会等名 野いばら講座（堀辰雄記念館）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 芥川龍之介と大阪毎日新聞 文壇と向き合う青年作家の「野望」
3. 学会等名 東洋大学日本文学文化学会2023年度大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 「芥川龍之介直筆資料」を巡るいくつかの課題—研究の「場」に与える直接・間接の影響という観点から
3. 学会等名 国際芥川龍之介学会ISAS第5回研究集会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石川則夫・齋藤樹里
2. 発表標題 折口信夫旧像資料・折口信夫への献本調査－室生犀星を中心に
3. 学会等名 國學院大學国文学会 1 月例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石川則夫
2. 発表標題 小林秀雄と日本古典文学
3. 学会等名 全国大学国語国文学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 「大阪毎日新聞社と菊池寛」補説
3. 学会等名 国文学言語と文芸の会 3 月例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石川則夫・齋藤樹里
2. 発表標題 折口信夫宛献呈本の調査報告 室生犀星献呈本を中心に
3. 学会等名 3研究グループ合同近代作家の直筆資料をめぐる第1回公開勉強会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 芥川龍之介「伝」・「年譜」考 太宰治、ストラヴィンスキー、モーパッサンに関わる「記述」をめぐる課題
3. 学会等名 国際芥川龍之介学会 ISAS (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 大阪毎日新聞社と菊池寛、芥川龍之介
3. 学会等名 3研究グループ合同近代作家の直筆資料をめぐる第2回公開勉強会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本博明
2. 発表標題 折口信夫、自著を献呈する
3. 学会等名 3研究グループ合同近代作家の直筆資料をめぐる第2回公開勉強会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本博明
2. 発表標題 折口信夫の民俗・芸能調査 新出資料の紹介とともに
3. 学会等名 盛岡大学日本文学会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石川則夫, 斎藤樹里
2. 発表標題 「折口信夫への献本調査 - 室生犀星を中心として -」
3. 学会等名 國學院大學国文学会2020年1月例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本博明
2. 発表標題 同時代文学と折口信夫
3. 学会等名 シンポジウム「折口信夫・釈迦空の魅力を語る」(羽咋市)(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本博明
2. 発表標題 折口信夫没後70年の「文芸復興」
3. 学会等名 國學院大學国文学会(招待講演)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 庄司達也、西山康一、掛野剛史、他2名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 翰林書房	5. 総ページ数 160
3. 書名 薄田泣菫読本	

1. 著者名 庄司達也 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 64
3. 書名 青い馬 復刻版	

1. 著者名 庄司達也、秋山駿、原善	4. 発行年 2020年
2. 出版社 鼎書房	5. 総ページ数 283
3. 書名 三浦哲郎全作品研究事典	

1. 著者名 庄司達也 他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 秀明大学出版会	5. 総ページ数 136
3. 書名 教科書と近代文学 : 「羅生門」「山月記」「舞姫」「こころ」の世界	

1. 著者名 庄司達也	4. 発行年 2021年
2. 出版社 国立台湾大学	5. 総ページ数 368
3. 書名 日本文学研究叢書35 芥川龍之介研究 台湾から世界へ	

1. 著者名 庄司達也、安藤宏他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠社	5. 総ページ数 807
3. 書名 坂口安吾大事典	

1. 著者名 松本博明	4. 発行年 2018年
2. 出版社 リヴァーブレス社	5. 総ページ数 256
3. 書名 いわて四季順禮	

1. 著者名 庄司達也他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 琥珀書房	5. 総ページ数 160
3. 書名 『小天地』復刻版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>科研獲得3グループが合同して公開勉強会を開催した。2021年1月31日、「1910～30年代の文化メディアにおける日中相互表象の形成と展開」（研究代表：篠崎美生子）「折口信夫旧蔵資料の分析・評価とその成果活用による同時代文学の資料学的研究」（同：松本博明）「芥川龍之介の直筆資料所蔵に関する調査と分析、総合データベースの構築及び活用の研究」（同：庄司達也）の3つの科研グループによって、オンラインを活用して公開勉強会を開催、40人以上の参加者が活発に討論した。</p> <p>盛岡市民を対象に、科研成果を踏まえて折口信夫の古典研究の成果を、分かりやすくかみ砕いて解説、講じた。題して「古典入門講座」。毎年5回開講、各回40人定員。毎回定員いっぱいの受講生に向けて、科研成果を踏まえた古典研究を享受した。（松本博明担当）</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石川 則夫 (Ishikawa Norio) (10286669)	國學院大學・文学部・教授 (32614)	
研究分担者	須藤 宏明 (Sudo Hiroaki) (60275584)	盛岡大学・文学部・教授 (31203)	
研究分担者	庄司 達也 (Shoji Tatuya) (60275998)	横浜市立大学・国際教養学部(教養学系)・教授 (22701)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	齋藤 樹里 (Saito juri)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
その他の国・地域	国立台湾大学		